



いずみ祭



2025年度 聖句

「イエス・キリストは、きのうも今日も、
また永遠に変わることのない方です」

(ヘブライ人への手紙 第13章8節)

IZUMI
topics

CONTENTS

遠回りの贈りもの	2
私の支えとなった4人の歴代学長先生との思い出	3
和泉短期大学のキリスト教活動／学生ホール改修	4
シリーズ研究室紹介／支えを力にして	5
TOPICS	7

遠回りの贈りもの



高校三年の夏、

突然、身体が壊れた。下痢や腹痛、咳が止まらず、昼夜が逆転して眠れない。

原因がわからず、病院をいくつも回った末、最後にたどり着いたのが順天堂大学病院だった。検査を重ねるうちに冬が過ぎ、三月の卒業式にはでられなかつた。

五月になって、ようやく診断が下つた。潰瘍性大腸炎。国が難病に指定したばかりの、治療薬もない病気だつた。ホルモン剤で進行を抑えるしかなく、いつ治るかもわからなかつた。やつと回復の兆しが見えたころ、父が急死した。町工場を営んでいた父は、まだ四十七歳だつた。そのショックで病状が悪化し、再び入院。ついには歩けなくなつた。東京女子医大に転院したとき、医師から「もう手遅れかもしれないと」言われた。

なぜ私は生きているのか、その意味を考えても答えは出ない。ただ、もう一度歩けるようになりたかった。主治医は手術を止めたが、「どうしても」と頼み込み、手術を受けた。運良く成功し、再び歩けるようになつた。

退院したあと、何をすればいいのかわからなかつた。そんな時、高校時代の友人から手紙が届いた。「つらく

なつたら電話して来いよ」とだけ書いてあつた。その一文が心に沁みた。自分の存在をまるごと受け止めてもらえた気がした。

私はその友人を頼つて北海道へ向かつた。札幌でアルバイトをしながら、何となく日々を過ごした。すると彼が言つた。「先生になつてみたら? 今からでも遅くないよ」。その言葉に背中を押され、二十五歳で北海道教育大学岩見沢分校に入学した。

周りは年下の学生ばかりだつたが、学ぶことが純粹に楽しかつた。小学校教員を目指す課程の中で、副免のためには美術を選択したのが、彫刻との出会いだつた。高校時代は芸術選択が音楽だつたので、美術には縁がなかつた。それでも、大学の先生の人柄に惹かれて、粘土に触れているうちに、次第にその世界に夢中になつていつた。

岩見沢は炭鉱の町で、遊ぶところが少なかつた。夜、静まり返つた校舎で一人、粘土をこねていると、心が落ち着いた。形が少しずつ現れてくると、自分の中の不安や焦りまで整理されるような気がした。あの時間が、私を生き返させてくれたのかもしれない。

東京へ帰省した時には、必ず上野の美術館へ行つた。公募展を見て、心に残る作品の作者名をメモしておいた。ある日、その名前を大学の先生に話す

と、「それは私の師匠だ」と笑われた。驚いたが、紹介を受けてその彫刻家のアトリエを訪ねるようになった。そこで「君は芸大の大学院に行つたらどうか」と勧められ、大学院に進学することを決めた。

愛知県立芸術大学大学院では、彫刻の先生が何人もいて、それぞれがまったく違う価値観を持つていた。素材も表現も、考え方さえ違う。最初は戸惑つたが、次第に「違う」ということと自分が面白くなつていつた。その中で、奈良時代の阿修羅像に代表される乾漆技法に出会つた。漆と麻布を重ねて形をつくる、根気と時間のいる技法だが、そこに日本の美の原点のようなものを感じた。

三十歳のころ、クリスチヤンになつた。大学の近くに、電通勤めの牧師が住んでいて、美術品をたくさん持つていた。絵や焼き物を見せてもらううち

に、いつのまにか聖書の話も聞くようになり、自然と信仰を持つた。病気の経験も関係していたのだと思う。

大学院修了後、和泉短期大学で教えることになった。採用条件が「教員免許を持つクリスチヤン」だつた。まさに偶然の出会いだつたが、導かれるようにして相模原に来た。造形の授業を担当し、学生たちと粘土や絵の具で作品を作る時間が、いまも何より楽しい。

和泉短大は保育士や幼稚園教諭を育てる学校で、二年間で資格が取れる。卒業生の多くは保育や介護の現場に進むが、待遇の厳しさから志望者は減っている。それでも、人を支える仕事は社会の根っこを作る仕事だと思つていい。その価値を学生に伝えることが、今の私の使命だ。

ところで、高校の思い出といえば、修学旅行の夜、友人とこつそり抜け出して怒られたこと。そして文化祭で夢中になつて大きな看板を作つたこと。勉強は苦しかつたが、両国高校で育つた「プライド」は、今も自分の支えになつていて。その中で、奈良時代の阿修羅像に代表される乾漆技法に出会つた。漆と麻布を重ねて形をつくる、根気と時間のいる技法だが、そこに日本の美の原点のようなものを感じた。

かつて現代国語の先生に言われた言葉がある。「佐藤君、いつまでも学長やつてちゃダメだよ」。あの言葉の意味を、今でもときどき考える。たぶん「自分の本分を見失うな」ということなのだろう。

病気で遠回りをしたけれど、その時間がなければ、彫刻にも、信仰にも、教育にも出会わなかつた。遠回りの道のりこそが、僕にとつての贈りものだつたのだと思う。

若い人たちに伝えたい。

知識を積み上げるだけでなく、自分が心から好きだと思えるものを見つけ、そして、掘んでほしい。好きなことが見つかれば、人生はきっと何度でも始められるような気がする。

学長 佐藤 守男



私の支えとなつた4人の歴代学長との思い出 —和泉での半世紀にわたる歩みを、思いのままに振り返る—

特任教授 武石 宣子

私は、1977年4月に和泉短期大学に奉職し、今年49年目を迎えるました。

あつという間の経過でした。何の業績もない私を受け入れていただいたことに、まずは心から感謝いたします。本稿ではこれまでお支えいただいた歴代4人の学長先生との思い出を、述べさせていただきながら和泉での半世紀にわたる歩みを振り返りたいと思います。私は和泉短期大学歴代総ての学長先生の下で、教員生活を経験いたしました。初代学長中島武夫先生(1965年1月～1976年3月)だけは、学長職を退いた後の理事長として接しました。

まず2代目学長野口敏雄先生(1976年4月～1981年7月)は、教員1年目不安だらけの私の授業『リトミック』をよく見学してくださいました。ある時、学長室に呼ばれ「何かして欲しいことはありますか。」「何か困っていることはありますか。」と、質問され私は即「グランドピアノが欲しいです。」と、とんでもない返答をいたしました。翌年グランドピアノが、リトミック室に設置されました。授業『リトミック』でのピアノを弾きながら

やすくなりました。今思えば、この時は和泉での教員生活を頑張らなくてはと、心に強く感じ留めた瞬間でもありました。

次は3代目学長花村春樹先生(1982年4月～1992年8月)との思い出です。社会福祉を専門とする先生は、和泉が保育者養成校として保育・幼稚教育だけでなく、福祉に強い児童福祉学科としての使命を世間に広めた先生でした。併設校として日本初の老人福祉専門学校(専攻科ヒューマンケア専攻の前身)建立時の先生でもあります。先生は私の経験を考慮し「専門学校では『レクリエーション指導法』の科目を担当していただきますよ。」と、指導の場を広げてくださいました。

「短大から4大に移行するかどうか」、「他の学科を増設するかどうか」、「専門学校をどう方向付けるか」等々問題が山積でした。今思えばこの時期から段々と学生募集減の影が押し寄せていましたのかも知れません。学長退職後、

先生からリヤドロの陶器人形『花の香りにつつまれて』をプレゼントしていただきました。このことをきっかけにリヤドロ収集が始まり、今では私の部屋には12体のリヤドロ陶器人形が飾られています。

最後7代目学長伊藤忠彦先生

(2002年4月～2014年3月)に

は、一番長く近くでご指導いただきました。私が教務部長の時、共に大学運営を担つた大切な先生でもあります。

先生は同時にチャップレンでもあります。学生を動かす授業展開は、一段とやり

やすくなりました。今思えば、この時は和泉での教員生活を頑張らなくてはと、心に強く感じ留めた瞬間でもありました。

そして6代目学長讃岐和家先生

(1996年4月～2002年3月)は、大学教育学会の会長もあり哲学・教育学を専門とする先生でした。先生が学長を担つてくださった数年の間に、和泉は大学として必要な規則・規程など、ほとんどの基礎が整えられました。今では評価文化は当たり前ですが、当時はめずらしく短期大学では最も早い時期に『自己点検・評価報告書』が公表されました。短期大学基準協会に伺う機会があり「和泉の報告書を参考にしていますよ。」と、言われ驚いたことがあります。

「短大から4大に移行するかどうか」、「他の学科を増設するかどうか」、「専門学校をどう方向付けるか」等々問題が山積でした。今思えばこの時期から段々と学生募集減の影が押し寄せていましたのかも知れません。学長退職後、

チャペルアワーを学びの中心に据え、そして建学の精神『キリスト教信仰に基づく教育と人格形成』、スクールモットー『愛と奉仕』を常に一貫して守り位置づけた先生であります。折々の大切な方針を決定する際に、教務部長として未熟な私を心から信じてくださり、職務が全うできるようご配慮いたしましたこと、今では感謝しかありません。牧師でもある先生から、現理事長須田拓先生とご一緒に洗礼を受けたこと、そして今こうして共に仕事をさせていただいていること、夢のようです。

先日、男子学生が側に寄つてきて「武石先生、僕のお婆ちゃんもお母さんも、先生のリトミックを学んだ卒業生です。」と、嬉しそうに話してくれました。そしてお婆ちゃんの卒業アルバムから取り出した、私の当時の写真を見せてくれました。今では2代目の学生は多く学んでいます。また3代目の学生も続くようになりました。和泉がキリスト教保育者・従事者を養成する日本においてなくてはならない短大として、これからも歩み続けることを願つてやみません。

私は今年度3月末をもつて、和泉短

期大学の教員生活を卒業いたしました。私が教務部長の時、共に大学運営を担つた大切な先生でもあります。

今後は外から和泉短期大学を見守り続けます。

和泉短期大学のキリスト教活動 「蒔かれた「神の愛」の種が、花開くことを願つて」

チャップレン・助教 今村 愛喜

本学のキリスト教活動には長期的な願いがあります。それは学生の成長において、またその後の人生において、学生一人ひとりに蒔かれた「神の愛」の種が、いつか花開くことです。

学生の殆どが、キリスト教に触れずに入学します。それ故に、キリスト教活動における「神の愛」の種蒔きは、学生一人ひとりが神に愛されていることを知り、「神への愛」「隣人愛」そして「愛と奉仕の精神」を持つた保育・福祉に従事する人へと成長し、実を結ぶことが願いです。この願いは人生を通じての長期的な視座でもあります。

この活動で最も大切にしていますのが、チャペルアワーです。毎週月曜日に学生と教職員が共に捧げる礼拝の時間です。チャペル委員の学生は受付等の奉仕をします。説教や奨励では、教職員や外部講師を通して語られる様々なメッセージを聞くことができ、豊かな恵みとなっています。また、イースター・クリスマス等の特別礼拝では、学生聖歌隊やハンドベルの賛美を行い、その活動を通じて仲間と共にキリスト教音楽に親しんでいます。他にもC.F.J.を通したフィリピンの子どもたちへの支援活動や、学生の自主的な活動のいざみバイブルサークル(IBC)を行っています。

私は、昨年の3月まで病院のホスピス



学生たちに蒔かれた「神の愛」の種が、将来の保育と福祉の働きにおいて、また、学生一人ひとりの人生のどこかで、いつか芽が出て花開くことを祈り、本学のキリスト教活動に励んで参ります。

でチャップレンとして勤めていました。そこでは多くの終末期の患者さんと出会いました。殆どの方が未信者です。しかし、死を前にされて、神に思いを向けられた殆どの患者さんが、ミッションスクール出身者でした。ミッションスクールで平安の中での祈りと共に安心して旅立られた神の愛の種は、その後の人生のどこかで、しかも死の間際であっても芽が出て、「神への希望」という花が開く可能性と希望があるということです。それが、ミッションスクールである和泉短期大学のキリスト教活動の重要性を強く思っています。

平安の中での祈りと共に安心して旅立られた殆どの患者さんが、ミッションスクール出身者でした。ミッションスクールで平安の中での祈りと共に安心して旅立られた神の愛の種は、その後の人生のどこかで、しかも死の間際であっても芽が出て、「神への希望」という花が開く可能性と希望があるということです。それが、ミッションスクールである和泉短期大学のキリスト教活動の重要性を強く思っています。

新しいホール「SORANIWA(ソラニワ)」が完成 「共生とウェルビーイングを象徴する

学生ホール改修プロジェクトワーキングメンバー 星 早織

本学ではこの度、学生ホールのリニューアルが完成しました。新名称は「SORANIWA(ソラニワ)」です。学生・教職員・地域の方々から広く名称を募集し、最多得票を獲得したSさん(児童福祉学科2年)の案に決定いたしました。「空(SORA)と庭(NIWA)のように明るく開放的で、誰もが居心地のよい空間に」という願いが込められています。2025年10月25日(土)に開催されたいづみ祭では、学生、教職員、地域の方々と共に期待と笑顔に包まれた雰囲気の中、名称の発表会が行われました。

本プロジェクトは、施設の「顔」となる場所を人と人が穏やかに出会い心やすらぐ空間として整え、温かみと洗練さを併せ持つ場へと生まれ変わらせることを目的に進められました。芝生エリアやカフェのようなナチュラルな雰囲気を取り入れ、訪れる人が一人でも仲間とでも心地よく過ごせる空間となることを目指しています。

計画の構想から完成まで、学内外の多くの声をもとにワーキングメンバーにてコンセプトを具体化してきました。コンセプトワークやディスカッションを重ね、他施設を見学したり実際に確かめたりしながら丁寧に形にしていきました。ここには教育・保育の核となる「ウェルビーイング(well-being)」の実現を象徴する場としたいという強い思い

があります。こども・学生・地域住民など、年齢や立場の異なる人々が自然に集い、つながり合い、互いの存在を認め合う—そんな共生社会の小さなモデルとなることを願っています。また、デザイン・設計・施工にあたり、笠井設計株式会社の皆様には多大なるお力添えをいただきました。改めて感謝申し上げます。



私は病院看護から訪問看護を経て、介護の教員をしています。訪問看護師の先輩から「看護と介護」の違いを教わりました。先輩は「看護は対象者に接すこと、熱を測ったり、脈を診たり、血圧を測る。それに比べて、介護は食事を食べたか、眠れたか、排泄はどうか、また介護をしている人を気遣い、対象者の生活を観察して支援する」と説明してくださいました。看護では全般的ケアと言われています。それを意識するのは対象者が退院して自宅での生活を考えるときだったような気がします。訪問看護は福祉的要素もあります。その対象者の生活を見る視点が重要です。そのため、今でも先輩の言葉ははつきりと心に残っています。

先で実際に必要とする対象者に看護師の指導を受けて、実施できるようになります。2023年度より和泉短期大では保育士の方にも医療的ケアの研修をしています。障がい児センターに勤務する受講生は「通所してくる子ども達に保育士が医療的ケアを日々実施しているため、この研修に参加した」と述べていました。

このように医療的ケアが生活支援の一部となり、実施する側には取り扱いに関する知識や技術が要求されます。また同時に事故のない、安全な方法で実施することも重要です。生活の一部を支える医療的ケアの研修では、学生や受講生に、1つ1つ丁寧に根拠をもつて伝えることを心がけています。



卒業生が輩出されています。
そして2025年度、緑区の二本
松保育園の運営母体「社会福祉法人竹
沢積慈会」、及び南区の小規模保育所
アップルキッズの経営母体「株式会社
オフィスハンド」との間で、それぞれ
協定書に基づく奨学金制度を締結しま
した。やはりどちらも給付型で就職義
務がありません。本学との信頼関係の
証しです。

2025年度前期、各法人の代表の方にお出でいただき奨学金贈呈式を行いました。その時はチャペルアワーの直後。つまり共に聖書のみ言葉を聴きました。礼拝をおささげした本学学生、役員、



生涯にわたって生かすことができる学位と資格と免許を得るためです。和泉短期大学で得るそれらは、創立70年にして近づく歩みの中で、築き、つなぎ、認められてきた信頼のもとにあります。応援してくださる市内の法人の皆様に心より深く感謝します。奨学生の皆さんには、支えを力にして学びを続けてほしいです。

教職員同席の下です。この奨学金の意義と込められた思いを共有する時となりました。いま、3法人とも2名ずつ、計6名の学生が、支えを受けて学び続けています。

支えを力にして

学生部長 横川 剛毅

2025年度 表彰者 真鍋記念奨学金（前期）

児童福祉学科2年 北嶋 桜乃

（県立厚木東高等学校出身）



この度は真鍋
記念特別奨学生
に選んでいただき、大変嬉しく

思います。2年生となり、新たな環境での学び、そして最後の実習に取り組むことができました。実習を通して先輩方のご活躍されてる姿を目にし、和泉短期大学の一員であることに喜びを感じるとともに、さらに全ての人に寄り添うことのできる人材を目指し、学びを深めていきたいと思いまし。後期も実りのある時間にできるよう努力していきます。

児童福祉学科2年 安田 有花

（S高等学校出身）

このたびは真鍋記念奨学金と
いう大変光栄な
賞をいただき、
心より感謝申し上げます。前期は

幼稚園や児童発達支援センターでの実習を通して「保育や支援とは、何かをしてあげることではなく、ともに生きることなのだ」という気づきを得ました。これからも一

人ひとりの子どもと丁寧に向き合い、その表現や願いにまなざしを向ける姿勢を大切にしていきたいです。この受賞を励みに、後期も「愛と奉仕」の心を大切にしながら学びの日々を歩んでまいります。

児童福祉学科1年 篠 音華

（都立町田総合高等学校出身）

この度は、このたびは
このような名誉ある賞をいただき
ます。和泉で学

びを重ねる中で、子どもの幸せや人の暮らしを支えることについて深く考え、自らの思いを少しずつ培うことができました。こうして学びを積み重ねられるのも、日頃から温かく支えてくださる和泉の皆様のおかげです。今後も一層勉学に励み、安心して生きられる社会に貢献できるよう尽力してまいります。

どうございます。この受賞はたくさんのことをご教授くださった先生方、そしてともに学び支え合つてくれた友人や家族のおかげだと深く感謝しております。特に、授業中に親身になってアドバイスをくれた友人に感謝しています。後

期の学びにおいてもこの恵まれた環境と支えてくださる方々への感謝を忘れず、今回の受賞を励みとして、さらなる成長を目指して努力を続けていきます。

専攻科 橋本 空

（和光高等学校出身）



この度は真鍋
記念奨学金とい
う名譽ある賞を
賜り、心より感

謝申し上げます。2年間で保育から得た学びや経験を基盤に、現在は介護の学びを深めることができます。今後は介護の視点からもさまざまな人の生活を支える

ことのできる存在を目指してまいります。今回の表彰は、支えてくださった先生方や友人、家族の力があつてのことと深く感謝しております。この栄誉を励みに、残る介護実習Ⅱや国家試験に向かって精進して参ります。



TOPICS

「現任研修＆公開講座」開催

2025年8月30日(土)、2025年度現任研修＆公開講座「ヒューマンソーシャルワークの今－保育・福祉実践における配慮・支援の視点を学ぶ－」が開催されました。

保育の現場で働いている方、これから保育の現場で働く方、保育の現場に復職しようとしている方を対象として、保育の質の向上に資するスキルアップ・キャリアチェンジ講座として実施し、64名(本学卒業生18名、その他46名)の参加者を得て盛会裏に終えることができました。研修に参加し、次の日以降の保育が楽しく感じられるような研修を今後も取り組んでいきます。



相模原市オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーンに協力

11月からの児童虐待防止月間に先立ち、2025年10月22日(水)に相模原市長を訪問し、和泉短期大学児童福祉学科の全学生で作った児童虐待防止のシンボル「オレンジリボン」1,200個を、学生を代表して児童福祉学科2年の小野結稀さんと小泉奈那さんから本村賢太郎相模原市長に手渡しました。相模原市に寄付されたオレンジリボンは相模原市内の児童虐待通告(相談)窓口のある各区の子育てセンター・児童相談所に置かれた他、相模原市の用意した啓発グッズと一緒に配布されました。



クリスマス礼拝

イエス・キリストのご降誕を祝うクリスマス礼拝を、2025年12月15日(月)におさげしました。

日本基督教団銀座教会牧師、チャイルド・ファンド・ジャパン理事長 高橋潤牧師により「救い主の降誕」と題して説教がなされました。また礼拝では、ハンドベルクワイアと学生聖歌隊による賛美奉獻がなされ、クリスマスにお生まれになった御子イエス・キリストへの賛美に出席者全員が心を合わせました。

礼拝後には、同窓会の皆さんから、在学生にクリスマスクッキーのプレゼントがありました。

全学をあげて、救い主イエス・キリストのご降誕をお祝いすることができました。



「保育・福祉系の授業研究会」開催

2025年8月2日(土)本学において、2025年度保育・福祉系の授業研究会を開催しました。

本学入試広報部長 松山洋平教授が、「保育・教育現場の連携による授業展開を目指して～地域や社会に開かれた他校種・多世代の交流を考える～」と題した本研究会の趣旨説明を行った後、すぎの森幼稚園 副園長 吉野孝洋先生による、「つなぐ明日へ～職業体験から広がる未来～」と題した話題提供がありました。後半は、話題提供を受けて、グループ懇談を行い、活発な意見が飛び交い、大変有意義な研究会でした。



学友会寄贈 学内各所にウォータースタンドを導入

2025年10月23日(木)1号館1階I ショップ前と4号館体育館1階に、ウォータースタンドを2台導入いたしました。

今回の取り組みは学生の健康維持や熱中症対策、ゴミを出さない環境活動へ貢献するため発案されたもので、2025年度学友会により寄贈されました。

マイボトル持参により、常温水と冷水の2種類を利用可能です。



第56回いざみ祭開催

2025年10月25日(土)に「つながれ広がれ笑顔のWA！」をテーマに第56回「いざみ祭」を開催しました。当日は、地域の皆様、中高生、卒業生、在校生のご家族など712名が来場くださいました。あいにくの雨の中での開催となってしまいましたが、各ブースとも大盛り上がり、来場者、学生、そして出店くださった皆様からも「楽しかった」「また来年も楽しみにしている」などの声を聞くことができました。



青葉2丁目自治会、社会福祉法人、地元中学校、同窓会の皆様も学園祭を盛り上げてくださいましてありがとうございました。

学生ホール開所式を開催

2025年9月22日(月)、和泉短期大学にて「学校法人和泉短期大学 創立70周年事業 学生ホールリニューアル開所式」を開催いたしました。

当日は、学生・教職員をはじめ、学生ホールの設計・施工をした協力会社の笠井設計株式会社にご参列いただき、温かな雰囲気の中で開所式が執り行われました。式典では、平塚事務局長の司会、今村チャプレンの司式により、讃美、聖書朗読、祈禱が行われ、須田理事長による感謝の言葉があり、新たな学生ホールの門出を祝いました。



はっぴいクリスマスコンサートを開催

2025年12月6日(土)和泉クラークホールにて、子育てひろば「はっぴい」と大学宗教部共催の「はっぴいクリスマスコンサート」を開催し、地域の方々、親子、学生、高校生、教職員と総勢174名に参加いただきました。

コンサートはハンドベル演奏、学生聖歌隊によるクリスマスソングと讃美歌、学生による絵本の読み聞かせ、学生とお子さんたちが一緒に歌ったり踊ったりする時間もあり、盛りだくさんのプログラムでした。コンサート終了後、参加されたお子さんたちに、サンタクロースからプレゼントが贈られ一緒に記念撮影をして心温まるひと時となりました。



「相模原市内高等学校校長及び教育協定校校長との教育研究会」を開催

2025年9月24日(水)第15回「相模原市内高等学校校長及び教育協定校校長との教育研究会」を開催し、相模原市内の高等学校7校7名、教育協定校1校1名、計8校8名の校長先生等が御出席くださいました。

当日の話題提供「多様な人々や価値感と出会い思わず主体的に学んでいる環境を創る」として、「ウェルビーディングルームの設置を通して」(中安恆太教授)、「安心して過ごし、つながりが生まれ、学びが広がる場所へ」(松山洋平教授)の講話をもとに、各テーブルで意見交換を行い、活発なご意見・ご報告をいただきました。



「『物価高に対する食の支援事業』クリスマスフェア」開催

2025年12月9日(火)に「『物価高に対する食の支援事業』クリスマスフェア(通算39回目)」を開催しました。今回の取り組みは、日本学生支援機構に寄せられた寄付金を「物価高に対する食の支援事業」とし各大学の学生を支援するもので、和泉短期大学では、この補助金と大学からの支援を使用して学生に昼食を無料で提供しました。さらにクリスマスフェアとしてキャンパスコンビニの全商品を20%OFFとして販売。学生からは大好評でした。2年生、専攻科生の学生にとって最後のフェアとなりましたが、とても楽しんでいたいだいたいようです。



2025年度 和泉短期大学「愛のいづみ基金奨学金」(給付型奨学金) のお願い

学校法人和泉短期大学の原点であるララ物資の精神を引き継ぐために本学教職員・法人関係者の方々からの寄付を中心とした本学独自の給付型奨学金基金を2018年度より設立しました。

現在の社会・経済環境が甚だ厳しい状況にありますが本学独自の愛のいづみ奨学金基金の趣旨をご理解のうえ、和泉短期大学の学生の支援充実のため、一人でも多くの方々のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

募金目標金額 3,000,000円

募金募集期間 2025年6月～2026年3月(第8期)

募金金額 1口5,000円

払込方法 郵便振替口座

口座番号 00280-6-105705

口座名 学校法人 和泉短期大学

愛のいづみ基金奨学金

寄付者一覧(敬称略) <2025年4月1日～2025年11月30日>

石川 佳代／伊藤 敏司／今村 愛喜／潮田 健治／沖津みや子／小椋 邦一／小澤 博道／片山 知子／川井 俊幸／岸川 洋治／雑賀えり子／佐久間志保子／佐藤 蘭美／佐藤 守男／曾根真理子／武石 宣子／同窓会いづみ／中野 陽子／中野志津江／中畠 宏幸／新田 恭平／野村 稔／橋本 隆司／平塚 豊／宮本 和武／森 三樹／八代 陽子／匿名希望(5件)

以上32件 635,000円

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人 和泉短期大学 042-754-1133

庶務ユニット(法人担当)

2025年度「教育環境充実資金募金」のお願い

学校法人和泉短期大学は1956年4月東京都世田谷区中町に「バット博士記念養成所」を開設し、同年5月「現任訓練講習会」を開催したことに始まります。1960年、その現任訓練機関が「玉川保母専門学院」となり、1965年に「和泉短期大学」が設立され、2024年5月に学校法人和泉短期大学は創立69年を迎えました。

学校法人和泉短期大学を卒業された卒業生は20,420名の方々の働きや努力と活躍により発展成長したものと深く感謝申し上げる次第であります。

和泉短期大学は、教育の充実を図り、学修環境整備、施設設備の維持整備を目的に2025年度も「教育環境充実資金募金」を行うことになりました。

皆様には出費多難な折とは存じますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金対象事業

- 1号館 教室プロジェクター交換工事
- 1号館 教室教卓周辺機器の整備
- ICT環境の整備

寄付者一覧(敬称略) <2025年4月1日～2025年11月30日>

池田 悅子／石川 佳代／伊藤 敏司／今村 愛喜／小椋 邦一／小澤 博道／片山 知子／岸川 洋治／古川 大樹／雑賀えり子／佐久間志保子／佐藤 蘭美／佐藤 守男／杉山 佳子／曾根真理子／武石 宣子／中野 陽子／中野志津江／中畠 宏幸／並松 文葉／新田 恭平／野村 稔／平塚 豊／藤原 宏大／森 三樹／八代 陽子／和寺 悠佳／匿名希望(6件)

以上33件 483,469円

募金目標金額 10,000,000円

募金募集期間 2025年6月1日～2026年3月31日(第14期)

募金金額 1個人 1口 5,000円

2法人 1口 10,000円

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。

詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人 和泉短期大学 042-754-1133

庶務ユニット(法人担当)

学校法人和泉短期大学創立70周年記念事業 「バリアフリー化推進事業募金」(エレベータ設置) のお願い

和泉短期大学は、相模原市に移転後49年を迎え、これまで神奈川県内を中心に多くの保育者、福祉従事者を養成してまいりました。近年は、幅広い年齢層の方や様々な困難を抱えた方が入学してくださっています。福祉を標榜する学校として、バリアフリー化をさらに推進するため、1号館にエレベータを設置中です。

事業の達成のため、甚だ恐縮ではありますが、皆様の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

募金方法については、本学ホームページのメニューから、[大学の紹介]→[寄付金]のページを参照いただくか、次の二次元コードを読み込んでアクセスしてください。

本学が寄付の決済代行を委託している株式会社エフレジ『F-REGI寄付支払い』でのお手続きとなります。クレジットカード、コンビニ、Pay-easy(ペイジー)からのインターネットバンキングによる決済に対応しています。

オンラインサービスをご利用せず、振込用紙を使う場合は、本学庶務ユニットまでご連絡ください。

